

第四節 沖永良部電気会社

一 電力の概況

奄美群島の電気事業は、明治四十四年、大島電気株式会社¹が電力を供給、つづいて四公営電気事業（大和村・瀬戸内町の一部・喜界町・与論町）で行われた。

奄美群島電気事業の九州電力株式会社への統合計画はまず四公営電気事業を大島電力株式会社²に吸収合併して、その後、大島電力株式会社を九州電力株式会社³に合併する方針であった。昭和四十五年四月一日、大和村公営電気事業の吸収合併を手始めに、昭和四十七年四月一日、喜界町公営電気事業の大島電力株式会社への吸収合併をもって、四公営電気事業の大島電力株式会社への合併を完了した。

昭和四十八年三月一日、大島電大株式会社は、九州電

力株式会社に統合された。

二 沖永良部島における電気事業

(一) 沖永良部電気会社創立の計画

大島・徳之島は、すでに電気会社が設けられて、文明の恩恵を被っていたのに、大島・徳之島に次いで、面積も人口も生産も大きい沖永良部島は、まだ電気の恵沢を受けず、これは、残念な事だと島民は嘆いていた。そこで、吉川県会議員を筆頭に島の有志が発起人となって会社設立を計画した。

島民の間には、「電気設備は生活の向上だ。文化施設だ。会社が維持できさえすれば、配当などは眼中に置かないでやろう」との意見もあつたが、賛成・反対半々であつた。

電気会社設立計画の要項

- 一、資金 二十万円
- 一、重油機関 六十馬力原動機

初旬の予算村会において詳細これを発表して賛同を求め、村会議員から委員を選んで共に沖永良部電気会社の内容を精査し、越えて三月三十一日臨時村会を招集し全会一致でこれを議決した。

当時沖永良部電気は資本金十万円、昭和四年の冬営業を開始した。固定財産八万二千元、負債四万九千元あり点灯数千二百戸・月八百五十円の純利益がある。

二 回払い込みまでの未払込一万一千元あり、その整理に苦心していた。

昭和七年四月 知名村営として電気課を設置営業。

昭和十年二月 知名村長吉松総照氏は知名町役場西

隣（現在地）へ移転。七十五馬力の予備機増設、さらに田皆地区をはじめ、西部方面へ延長し、電灯数も約千七百灯に増加した。

昭和二十年二月 空襲のため全焼（二十五日）。

昭和二十三年六月 三十キロワットの発電機で戦後はじめ

めての点灯を行う。（二日から）

昭和二十七年 米軍政府により大島電力株式会社設立。

- 一、電灯取付 二千灯
- 一、工事費 十万円
- 一、配当 年一割二分

（灯数千あればちょうど維持できるといふ）

(二) 電気事業の歩み概要

昭和二年四月二日 沖永良部電気会社創立。

昭和四年十月 和泊町古里に発電所建設完成。

昭和四年十一月 送電開始。古里・皆川・玉城・

和・和泊・手々知名・喜美留・畦布・大城・知名・小

米・瀬利覚・黒貫・芹清良・下平川・余多・上平川・竿

津・赤嶺・久志検の二十字。

電灯数約八百灯であつた。

原動機六十五馬力、発電能力は四十五キロワットであつた。

知名村長吉松総照氏は、税外収入の途を講じて村民の負担を軽減せんとした。動機から慎重考慮の結果、沖永良部電気株式会社を買収して、村営となさんとの計画を立て、さきに指宿郡頰娃村の電気村営状況を視察するなど、着々研究調査の歩みを進めていた。成果を得たので三月

昭和二十八年五月 沖永良部島もその傘下にはいる。

復帰当時の発電施設は、大島電力株式会社によって、最大出力わずかに三十二キロワットの施設しか設置されておらず、点灯率も、昭和三十三年にわずか十七パーセントであつた。また、発電施設の内容も、戦後まったく補修が加えられないままに酷使が続けられ老朽化が甚だしかった。

産業の振興・生活文化の向上をはかるためには、何よりも電力の整備が急務とされた。

復興事業で、昭和三十四年末点灯部落解消事業が導入され、昭和三十八年には、出力四百十二キロワット、点灯戸数も千二百六十三戸、点灯率七十二パーセントに達した。

その後、産業の著しい進展と住民の生活水準の向上により、電力需要も年々増大してきたので、引き続き振興事業でも施設の充実と電力供給体制の整備を図つた結果、昭和四十一年三月二十五日電気記念日を期して、二十四時間送電が実施された。昭和四十八年三月、大島電力株式会社は九州電力株式会社に合併、昭和四十八年度末の発電能力は、復帰時の九十六・八倍の三千百キロ

発電能力の推移

(単位 KW:倍)

年度別	28		38		43		48		53		56	
出力と倍率	出力	倍率	出力	倍率	出力	倍率	出力	倍率	出力	倍率	出力	倍率
奄美群島全体	89.4	1.0	6,871	7.7	17,731	19.4	31,384	35.1	52,229	58.4		
沖永良部知名発電所	32.0	1.0	412	12.9	2,430	75.9	3,100	96.8	4,100	162.5	4,100	303
沖永良部新知名発電所									1,100		5,600	

ワットとなつて、点灯率も九十九・二パーセントとなつた。

しかし、高度経済成長に伴い、業務用・家庭用の電力需要が増大し、電力不足を生じたために、九州電力株式会社は新知名発電所を設置した。昭和五十六年度の発電能力は、千七百キロワットで、全家庭・全事業所に電力の供給が行われている。

○ 参考資料

- 原田孝次郎氏「回想録」
- 月刊奄美大島縮刷版上巻
- 奄美群島の概況
- 和泊町統計資料